

3. 系への所属と学修課程について

1. 系への所属について

系への所属と受入可能予定人数

皆さんが「系」に所属するのは2年目からです。ただし、系に所属するためには所定の授業科目を履修し、かつ、所定の単位数を修得していなければなりません。必要単位は次頁表8のとおりです。

系には表7のとおり、受入可能予定人数というものが定められていますが、実際に所属できる人数（受入数）は、当該年度の所属有資格者（1年以上在学し、所定の授業科目及び単位を修得した者）の人数及び各学院の収容定員に対する在学者数によって増減しますので、表7は参考として捉えてください。その上で、系への所属は、皆さんの学業成績と志望によって決定します。

所属する系は皆さんの志望と100番台の授業科目等による成績によって決定されますから、この点に十分注意して、1年目当初から学修を怠らないよう心がけてください。 ※ 志望者が多い系については成績次第では所属できず、それ以外の志望下位の系に所属することになる場合も有り得ます。

表7 系及び受入可能予定人数 ※この表の人数は「比例配分」に用います。

学院	系	受入可能 予定人数
理学院	数学系	29
	物理学系	61
	化学系	44
	地球惑星科学系	32
工学院	機械系	144
	システム制御系	48
	電気電子系	90
	情報通信系	49
	経営工学系	62
物質理工学院	材料系	92
	応用化学系	109
情報理工学院	数理・計算科学系	52
	情報工学系	93
生命理工学院	生命理工学系	164
環境・社会理工学院	建築学系	62
	土木・環境工学系	40
	融合理工学系	45

所属系の決定方法

（１）志望系の申告

系所属については、9月下旬～11月頃に系所属オリエンテーション及び学院又は系によるオリエンテーションが行われ、内容について説明があります。日程等は掲示板等で周知します。

志望する系の申告は、原則として入学した学院の全ての系に志望順位（第1志望、第2志望、…）を決めて申告することになります。（学院内系所属）

（２）系所属の資格

1年目の第4クォーターまでに次の授業科目の単位(表8)を修得していないと、2年目に系所属することができません。

表8 系所属に必要な単位

科目区分等		系所属に必要な単位 (下記の両者を満たすこと。)	
文系教養科目	100番台の必修科目「立志プロジェクト」2単位, 100番台の選択必修科目(人文学系, 社会科学系, 融合系から各1単位)の計4科目, 合計5単位	左記の授業科目 (計 20 科目, 合計 23 単位)から 計 17 単位以上 を修得すること。	左記の授業科目 から計 31 単位 以上を修得すること。
英語科目	100番台の必修科目, 計4科目, 合計4単位		
理工系教養科目	100番台の必修科目13科目のうち, 「情報リテラシ 第一」を除く計12科目, 合計14単位		
上記以外の 100 番 台の授業科目	※ただし, 以下の科目を除く 【文系教養科目】 リベラルアーツ探究ワークショップ 【英語科目】 英語海外研修 1A, 1B 実践型科学技術英語海外研修 I 【第二外国語科目】第二外国語海外研修 1A, 1B 【教職科目】全科目 【日本語・日本文化科目】全科目 【アントレプレナーシップ科目】 グローバル海外研修ベーシック (1, 1D) 国際経験実践ベーシック (1AB～4CD) オンライングローバル研修ベーシック 【広域教養科目 (国際意識醸成・広域科目)】 アイデアが飛び交う遠隔議論ベーシック 【横断科目】全科目	—	

(3) 選考と決定

系への所属は, 系の受入数と有資格者の成績及び志望によって決定されますが, その選考方法はおおよそ次のとおりです。

系の受入数について, まず学院内の有資格者の 1.1 倍の数を, 表7に示した各系の受入可能予定人数で比例配分(端数切捨)し, 各学院及び各系の教育上の事情を考慮して定める「系最大受入人数」を算出します。系最大受入人数の 100/110(端数切上)を「学院内調整人数」, 10/110(端数切捨)を「学院外受入上限人数」と呼び, 総得点(表9の「Ⅰ 共通得点に用いる授業科目等」及び「Ⅱ 算出式」による総得点)が高い学生の志望順位順に所属する系を決定します。

具体的には, 各系の「学院内調整人数」の範囲において学院内系所属希望者を対象として所属を決定し, 各系の「学院外受入上限人数」の範囲において「学院内調整人数」で所属が決定しなかった学院内系所属希望者と当該系への学院外系所属希望者を合わせて所属を決定します。

(注意) 理学院の総合型選抜入試(一般枠)で合格した者は, 出願時に希望した系に所属することができます。ただし, 出願時に希望した系とは異なる系への所属を希望することも可能です。当該学生には, 系所属の志望申告とは別に, 意向調査を実施します。詳細については, 当該学生に個別にお知らせします。また, 環境・社会理工学院の

総合型選抜入試の総合問題Aを受験し合格した者は建築学系に、総合問題Bを受験し合格した者は土木・環境工学系に、総合問題Cを受験し合格した者は融合理工学系に、それぞれ所属することが決定していますので、当該学生は、系所属の志望申告の手続きは不要です。※ いずれも、系所属するためには有資格者であることが必要です。

また、選考にあたっては、系最大受入人数を超えないこと及び学院最大受入人数（各学院の収容定員に基づき、当該年度における在学者数を踏まえて算出）を超えないものとします。

系所属に必要な単位を1年目に修得できなかった者は、翌年度に不足単位を修得し、改めて1年後に系所属を志望することになります。

所属学院以外への系所属

所属学院（入学時の学院）内の系を希望することが原則ですが、もし所属学院以外の系に所属することを希望する場合は、次により取り扱われます（学院外系所属）。ただし、当該年度の収容定員に余裕がない学院に属する系については、学院外受入上限人数が設定されない場合や学院外受入上限人数の枠が若干名になる場合があります。学院外受入上限人数が設定されていない系には所属できません。特に2027年4月の系所属においては、理学院に属する数学系、物理学系、化学系及び地球惑星科学系、工学院に属する機械系、システム制御系、電気電子系、情報通信系及び経営工学系、並びに情報理工学院に属する数理・計算科学系及び情報工学系、並びに環境・社会理工学院に属する建築学系、土木・環境工学系、融合理工学系の学院外受入上限人数の枠は若干名になる見込みです。

(1) 志望することができる学院外の系は1系のみ。

(2) 所属している学院から学院外の系に所属することができる人数は、所属している学院の有資格者の10/100まで（端数切捨）。希望者がそれを超過する場合は、総得点が高い者から順に選考。

(3) 志望する系において学院外の者を受け入れることができる人数は、当該系の学院外受入上限人数まで。

なお、学院外系所属を希望する場合は、志望申告をする前に初年次担当主任の承認を得ることが必要です。

一旦所属した系の変更について（転系）

系に所属した後、他の系への所属を希望する場合は、次の2通りの方法があります。

(1) 再度の系所属による転系（入学後、系に所属していないものとして系所属をやり直すことにより転系できることがある。）

(2) 審査による転系（転系を志望する系における受入れ及び当該系を置く学院の収容定員に特に余裕が有り、かつ、志望する系を置く学院及び転系希望者が所属する学院の教授会において学修状況等を審査の上、許可されることがある。）

※詳細については、系所属 HP (<https://www.titech.ac.jp/student/students/life/affiliation>) の

転系に関する案内をよく確認してください。また、転系を希望する場合には、事前にアカデミック・アドバイザーや関係系主任とよく相談してください。なお、学期の途中で転系をすることはできません。

表9 I 共通得点に用いる科目等

A) 必修単位群

授業科目			単位数
文系教養科目	選択必修科目（人文学）	哲学A	1
	選択必修科目（人文学）	芸術A	1
	選択必修科目（人文学）	文化人類学A	1
	選択必修科目（人文学）	文学A	1
	選択必修科目（人文学）	歴史学A	1
	選択必修科目（人文学）	宗教学A	1

授業科目			単位数
	選択必修科目（人文学）	コミュニケーション論A	1
文系教養科目	選択必修科目（人文学）	教養特論：多文化共生論	1
	選択必修科目（人文学）	外国語への招待1	1
	選択必修科目（人文学）	外国語への招待2	1
	選択必修科目（人文学）	表象文化論A	1
	選択必修科目（人文学）	英語圏文化を知る	1
	選択必修科目（社会科学）	法学（憲法）A	1
	選択必修科目（社会科学）	法学（民法）A	1
	選択必修科目（社会科学）	政治学A	1
	選択必修科目（社会科学）	心理学A	1
	選択必修科目（社会科学）	社会学A	1
	選択必修科目（社会科学）	教養特論：現代社会の課題とコミュニケーション	1
	選択必修科目（社会科学）	経済学A	1
	選択必修科目（社会科学）	教養特論：ファッション論	1
	選択必修科目（社会科学）	教養特論：東南アジア	1
	選択必修科目（社会科学）	メディア論A	1
	選択必修科目（社会科学）	教養特論：経営学入門	1
	選択必修科目（社会科学）	教養特論：障害学	1
	選択必修科目（社会科学）	教養特論：アメリカ学	1
	選択必修科目（社会科学）	教養特論：経済学入門	1
	選択必修科目（社会科学）	教養特論：ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン（DEI）	1
	選択必修科目（社会科学）	福祉論A	1
	選択必修科目（融合）	統計学A	1
	選択必修科目（融合）	科学史A	1
	選択必修科目（融合）	技術史A	1
	選択必修科目（融合）	科学技術社会論・科学技術政策A	1
	選択必修科目（融合）	科学技術倫理A	1
	選択必修科目（融合）	科学哲学A	1
	選択必修科目（融合）	社会モデリングA	1
	選択必修科目（融合）	意思決定論A	1
	選択必修科目（融合）	言語学A	1
	選択必修科目（融合）	学びのデザイン	1
	選択必修科目（融合）	教養特論：技術と創造的想像力	1
	選択必修科目（融合）	教養特論：ミュージアムから学ぶ科学・技術・文化コミュニケーション	1
	選択必修科目（融合）	教養特論：未来社会デザイン入門	1
	選択必修科目（融合）	未来社会論A	1
	選択必修科目（融合）	考古学・自然人類学A	1
	選択必修科目（融合）	社会調査法A	1
英語科目	必修科目	英語第一	1
	必修科目	英語第二	1
	必修科目	英語第三	1
	必修科目	英語第四	1
教養科目 理工系	必修科目	微分積分学第一・演習	2
	必修科目	線形代数学第一・演習	2
	必修科目	力学基礎1	1

授業科目			単位数
理工系教養科目	必修科目	力学基礎 2	1
	必修科目	電磁気学基礎 1	1
	必修科目	電磁気学基礎 2	1
	必修科目	無機化学基礎	1
	必修科目	有機化学基礎	1
	必修科目	量子化学基礎	1
	必修科目	化学熱力学基礎	1
	必修科目	生命科学基礎第一 1	1
	必修科目	生命科学基礎第一 2	1

B) 選択単位群

授業科目			単位数
文系教養科目	人文学系ゼミ（創造と思考のレッスン）導入 1		2
	人文学系ゼミ（創造と思考のレッスン）導入 2		2
	人文学系ゼミ（現代宗教／スピリチュアリティ論）導入 1		2
	人文学系ゼミ（現代宗教／スピリチュアリティ論）導入 2		2
	人文学系ゼミ（インプロ／吹奏楽）導入 1		2
	人文学系ゼミ（インプロ／吹奏楽）導入 2		2
	人文学系ゼミ（歴史と政治を読み破る）導入 1		2
	人文学系ゼミ（歴史と政治を読み破る）導入 2		2
	社会科学系ゼミ（法学ゼミ）導入 1		2
	社会科学系ゼミ（法学ゼミ）導入 2		2
	社会科学系ゼミ（心理学）導入 1		2
	社会科学系ゼミ（心理学）導入 2		2
	社会科学系ゼミ（政治と社会）導入 1		2
	社会科学系ゼミ（政治と社会）導入 2		2
	融合系ゼミ（意思決定論）導入 1		2
	融合系ゼミ（意思決定論）導入 2		2
英語科目	英語スピーキング演習第一		1
	英語スピーキング演習第二		1
	英語スピーキング演習第三		1
	英語スピーキング演習第四		1
	英語プレゼンテーション演習第一		1
	英語プレゼンテーション演習第二		1
	英語プレゼンテーション演習第三		1
	英語プレゼンテーション演習第四		1
	TOEFL 対策セミナー（リスニング&スピーキング）第一		1
	TOEFL 対策セミナー（リスニング&スピーキング）第二		1
	TOEFL 対策セミナー（リスニング&スピーキング）第三		1
	TOEFL 対策セミナー（リスニング&スピーキング）第四		1
	TOEFL 対策セミナー（リーディング&ライティング）第一		1
	TOEFL 対策セミナー（リーディング&ライティング）第二		1
	TOEFL 対策セミナー（リーディング&ライティング）第三		1
	TOEFL 対策セミナー（リーディング&ライティング）第四		1
	TOEIC 対策セミナー第一		1
	TOEIC 対策セミナー第二		1
	TOEIC 対策セミナー第三		1

授業科目		単位数
科目 英語	TOEIC 対策セミナー第四	1
	英語スピーキング演習 GI	2
	英語スピーキング演習 GII	2
	英語学習法	1
教養 科目 広域	健康科学概論	1
	ウェルネス実習	1
	生涯ウェルネス実習	1
	健康科学演習	1
ブレ ン ナ ー シ ン グ プ ロ グ ラ ム	グローバル課題解決演習基礎	2
	グローバル課題解決演習入門	2
	異文化グループワーク海外研修ベーシック 2	2
理 工 系 教 養 科 目	微分積分学第二	2
	線形代数学第二	2
	微分積分学演習第二	1
	線形代数学演習第二	1
	物理学演習第一	1
	物理学演習第二	1
	物理学実験第一	1
	物理学実験第二	1
	化学実験第一	2
	化学実験第二	2
	生命科学基礎第二 1	1
	生命科学基礎第二 2	1
	生命科学基礎実験	1
	宇宙地球科学 A	2
	宇宙地球科学 B	2
	宇宙地球科学基礎ラボ（地球物理）	1
	宇宙地球科学基礎ラボ（地球物質）	1
	宇宙地球科学基礎ラボ（天文学）	1
	図形科学と CG1	1
	図形科学と CG2	1
	図学・図形デザイン第一	2
	図学・図形デザイン第二	2
	図学製図	1
	情報リテラシ第一	1
	情報リテラシ第二	1
	コンピュータサイエンス第一	1
	コンピュータサイエンス第二	1
	環境安全論	1
	ものづくり	2
専 門 科 目	科学・技術の創造プロセス【理学院】	1
	科学・技術の創造プロセス【工学院】	1
	科学・技術の創造プロセス【物質理工学院】	1
	科学・技術の創造プロセス【情報理工学院】	1
	科学・技術の創造プロセス【生命理工学院】	1
	科学・技術の創造プロセス【環境・社会理工学院】	1
	理学院リテラシ	1

授業科目		単位数
	理学院専門基礎	2
専門科目	工学リテラシーI	1
	工学リテラシーII	1
	工学リテラシーIII	1
	工学リテラシーIV	1
	物質理工学リテラシ	1
	物質理工学概論 A	1
	物質理工学概論 B	1
	物質理工学概論 C	1
	情報理工学リテラシー	1
	情報理工学基礎 1	1
	情報理工学基礎 2	1
	情報理工学基礎 3	1
	最先端生命研究概論【生命理工学院】	1
	生命理工学院リテラシ	2
	国際バイオ創造設計【生命理工学院】	1
	環境・社会理工学院リテラシ	1
	環境・社会理工学院専門基礎 1	1
	環境・社会理工学院専門基礎 2	1
	環境・社会理工学院専門基礎 3	1

C) その他 (TOEFL 等)

TOEFL (iBT, ITP) テストのスコア及び TOEIC (公開, IP) テストのスコアを有している場合は、以下の換算式をもって成績 (点数) とみなし、実用英語技能認定試験 (以下「英検」という。) 1 級を有している場合は、100 点の成績とみなす。

- ・ TOEFL iBT テスト : スコア = 成績
※100 を超えるスコアの場合は 100 とする。
- ・ TOEFL ITP テスト : $(\text{スコア} - 500) / 2.5 + 60 = \text{成績}$ (小数点以下切捨)
※換算の結果、100 を超えた場合は 100 とする。
- ・ TOEIC (公開, IP) テスト : $(\text{スコア} - 600) / 6.875 + 60 = \text{成績}$ (小数点以下切捨)
※換算の結果、100 を超えた場合は 100 とする。

- (1) TOEFL iBT テスト, TOEFL ITP テスト, TOEIC 公開テスト, TOEIC IP テスト又は英検 1 級 (以下「TOEFL 等」という。) のうちいずれか一つを用いることができるものとし、総得点の算出においては、1 単位として取扱う。
- (2) 上記の取扱いを希望する者は、TOEFL (iBT, ITP) テストについてはスコアレポート, TOEIC 公開テストについては公式認定証, TOEIC IP テストについてはスコアレポート, 英検 1 級については合格証明書を、所定の様式と共に所定の期日までに教務課へ提出しなければならない。(※TOEFL (iBT, ITP) 及び TOEIC (公開, IP) のスコアについては、当該年の 1 月末日において受験日から 2 年以内のものに限る。)

II 算出式

I (A) 必修単位群及び (B) 選択単位群の授業科目については、「成績×単位数」として得点を算出する。

総得点の算出においては、「(A) 必修単位群の授業科目の成績上位 17 単位」(以下「必修上位 17 単位」という。)の得点合計値と、「必修上位 17 単位以外の必修単位群の授業科目の成績、(B) 選択単位群の授業科目の成績及び (C) その他 (TOEFL 等) の成績の上位 14 単位」(以下、「選択等上位 14 単位」という。)の得点合計値を足した値を総得点とする。(最大 3,100 点)

総得点＝必修上位 17 単位の得点合計値 ＋ 選択等上位 14 単位の得点合計値

(注 1) : 総得点の対象とする成績は、0 点～100 点です。(よって不合格点の科目も用いられます。)

(注 2) : 必修上位 17 単位のうち、文系教養科目は成績の高得点順に最大 3 単位まで総得点に用いることができます。

(注 3) : 必修上位 17 単位の成績上位から数えて 17 単位目が 2 単位の授業科目だった場合は、1 単位として扱うとともに、当該授業科目は、必修上位 17 単位以外の必修単位の授業科目の 1 単位の成績としても扱います。また、選択等上位 14 単位の成績上位から数えて 14 単位目が 2 単位の授業科目だった場合は、1 単位として扱います。

(注 4) : I の (C) による TOEFL 等の成績を用いる場合は、(A) 必修単位群の英語第一、英語第二、英語第三及び英語第四と合わせ、そのうち成績上位 4 位までを用いることができます。(最大 400 点)

(注 5) : I の (B) のうち、「ウェルネス実習」と「生涯ウェルネス実習」の 2 科目を履修した場合は、そのうち成績上位 1 科目のみを用いることができます。

(注 6) : I の (A) 及び (B) の表では、総得点の対象となる科目のうち、2025 年度以前に開講され 2026 年度以降に開講されない科目については記載を省略しています。

(注 7) : 旧課程の科目 (科目コードが Z で始まる科目 (例 : ZMA.C101 等)) は系所属には用いません。

赤字箇所修正
2026 年 6 月

2. 学修課程について

学修課程

系に所属した学生は、アカデミック・アドバイザー等の指導も受けながら、自ら学修計画を立て、各授業科目を履修することになります。この場合、各系には**標準学修課程**というのが設けられているのでそれに従うのが实际的、かつ有効です。しかし目的によっては標準学修課程以外の課程を設ける場合があります。

標準学修課程による場合

標準学修課程は、研究者や技術者等それぞれの分野で社会に出てから活躍するために学修すべき標準のもので、時間割はその学修に支障のないように編成されています。各系の標準学修課程は表10のとおりです。

各標準学修課程の詳細については後に記載していますが、これらの学修課程に示された条件には若干の自由度があり、他の学修課程にあげられた授業科目の履修もある程度可能です。その場合は系主任、アカデミック・アドバイザー等と相談の上、学修計画を立ててください。

表 10 各系の標準学修課程

学院	系	標準学修課程
理学院	数学系	数学系学修課程
	物理学系	物理学系学修課程
	化学系	化学系学修課程
	地球惑星科学系	地球惑星科学系学修課程
工学院	機械系	機械系学修課程
	システム制御系	システム制御系学修課程
	電気電子系	電気電子系学修課程
	情報通信系	情報通信系学修課程
	経営工学系	経営工学系学修課程
物質理工学院	材料系	材料系学修課程
	応用化学系	応用化学系学修課程
情報理工学院	数理・計算科学系	数理・計算科学系学修課程
	情報工学系	情報工学系学修課程
生命理工学院	生命理工学系	生命理工学系学修課程
環境・社会理工学院	建築学系	建築学系学修課程
	土木・環境工学系	土木・環境工学系学修課程
	融合理工学系	融合理工学系学修課程

標準学修課程によらない場合

(1) 「B2D スキーム」による場合：

B2D スキーム (B2D 特別学修課程) は、各系が定める標準学修課程によらない課程に位置付けられます。詳細は B2D 特別学修課程案内を参照してください。(P. 202 参照)

(2) 「B2D スキーム」以外の場合：

各系が定める標準学修課程によらない課程による学修を希望する場合には、自ら標準学修課程以外の学修計画を立てて、適当な科目を選択、履修することもできます。この場合は、系所属と同時に、標準学修課程の科目と対応するような計画書をつくり、4月の履修期間中のできるだけ早い時期に所属系主任の承認を受け、これを学院長に提出しなければなりません。なお、提出書類は、教務課で受け付けます。

この計画は、系所属から卒業までの全期間にわたるもので、慎重を要しますが、いずれにしても2年目終了までは、ほぼ、その系の推奨する標準学修課程に添って履修することになるでしょう。なお、このような計画に際しては、時間割についても検討し、学修に支障のないようにすることが必要となります。